



「2004豊かなウォーターフロント」 フォトコンテスト



本コンテストは、海・海辺の四季折々、津々浦々の姿を、写真を通じて表現して頂き、ともすれば日常、海や海辺と疎遠になりがちな方々に対して「海・海辺」の素晴らしさを再認識して頂くとともに、ウォーターフロントの景観に対する意識を啓発することを目的としています。

ウォーターフロントフォトコンテストも13回目となり、今回は港や海辺の人々とのかかわり、そして港や海辺における自然と風景をテーマにした写真の募集を行いましたところ、588点の様々な作品の応募があり、平成16年11月12日、日本港湾協会会議室において厳選なる審査を行い以下の通り入選作品が決定されました。

●テーマ

「みなと・海辺の人々、自然」

- マリナーや海岸等で憩う人々
- みなとや海辺のイベントに集う人々
- 港湾での活力ある物流活動
- 人と海がふれあう海岸
- 美しい魅力のあるみなとや海辺の景観
- 押し寄せる高波など自然の脅威
- 安全で親しまれる海岸
- みなとにおける干潟や海辺の生物などの自然環境
- やわらかな感性をはぐくむ水辺
- ゴミ、放置艇等のみなと周辺の社会的な問題 など

- 主催 社団法人 日本港湾協会、港湾海岸防災協議会
- 後援 国土交通省
- 協賛
 - コニカミノルタホールディングス株式会社
 - 社団法人 日本旅客船協会
 - 社団法人 ウォーターフロント開発協会
 - 社団法人 日本外航客船協会
 - 社団法人 日本マリナー・ビーチ協会
 - 財団法人 港湾空間高度化環境研究センター
 - 財団法人 港湾空港建設技術サービスセンター

●審査会場 (社)日本港湾協会 会議室

●審査日 平成16年11月12日

●審査員 (順不同・敬称略)

- 齋藤 潮
東京工業大学教授
- 富岡 畦草
写真家
- 松野 正雄
写真家
- 生内 玲子
ルポライター
- 中嶋 龍一郎
国土交通省港湾局環境整備計画室長
- 内村 重昭
国土交通省港湾局海岸・防災課長
- 栢原 英郎
社団法人 日本港湾協会理事長

●入賞作品

●国土交通大臣賞

「夕涼み」
藤吉 修忠(和歌山県和歌山市)

●港湾局長賞

「荷揚げ」
飯田 忠雄(静岡県静岡市)

●日本港湾協会会長賞

「冬の地引漁」
坂本 智弘(大分県大分市)

●港湾海岸防災協議会長賞

「海辺のファミリー」
仲村 千佳子(沖縄県名護市)

●北海道開発局長賞

「早朝の澄波」
里瀬 勝(北海道広尾町)

●東北地方整備局長賞

「タベの港」
田島 一夫(宮城県石巻市)

●関東地方整備局長賞

「港の休日」
角谷 武久(神奈川県秦野市)

●北陸地方整備局長賞

「いかた曳航」
佐藤 芳恵(新潟県新潟市)

●中部地方整備局長賞

「消防出初め式」
山崎 俊泰(静岡県掛川市)

●近畿地方整備局長賞

「飛び散る波」
坪倉 義英(京都府京丹後市)

●中国地方整備局長賞

「休日」
上田 興造(岡山県倉敷市)

●四国地方整備局長賞

「進水式」
松本 憲知(香川県丸亀市)

●九州地方整備局長賞

「休日」
外尾 英介(福岡県北九州市)

●沖縄総合事務局賞

「台風一過・荒れる海」
富平 実(沖縄県沖縄市)

●佳作(40点)

- 五十苅克敏(北海道函館市)
- 高橋 春子(北海道函館市)
- 北構善一朗(北海道釧路市)
- 高橋 堅司(北海道江別市)
- 森 征人(北海道福島町)
- 星野 季夫(宮城県石巻市)
- 森 惇(福島県川俣町)
- 藤原 幸雄(神奈川県厚木市)
- 柳川 健治(神奈川県秦野市)
- 片山 和澄(神奈川県横浜市)
- 山田 益夫(神奈川県横浜市)
- 小崎 敬司(神奈川県二宮町)
- 中桐 敬二(東京都杉並区)
- 野崎 佳信(東京都練馬区)
- 小笠原康利(神奈川県藤沢市)
- 岩上 行得(東京都文京区)
- 渡辺いく子(東京都八王子市)
- 横山 宣明(東京都東村山市)
- 辻村三枝子(神奈川県川崎市)
- 本橋 省吾(東京都小金井市)
- 土田 和彦(新潟県新潟市)
- 宮本 建一(石川県羽咋市)
- 川崎 幸雄(三重県桑名市)
- 丹羽 明仁(愛知県小牧市)
- 鈴木 賢治(兵庫県神戸市)
- 藤原 素子(大阪府大阪市)
- 和田 藤朗(大阪府大阪市)
- 三田 輝樹(和歌山県日置川町)
- 松本 研一(岡山県岡山市)
- 藤江 松男(島根県出雲市)
- 松田 昇(徳島県三加茂町)
- 宮本 雅光(香川県大野原町)
- 白石 信夫(愛媛県宇和島市)
- 横山 光夫(香川県観音寺市)
- 大社 正照(鹿児島県鹿児島市)
- 岡田 克己(大分県白杵市)
- 本山 繁敏(長崎県時津町)
- 松田 勝(沖縄県那覇市)
- 上里 輝夫(沖縄県那覇市)
- 松田 光子(沖縄県今帰仁町)



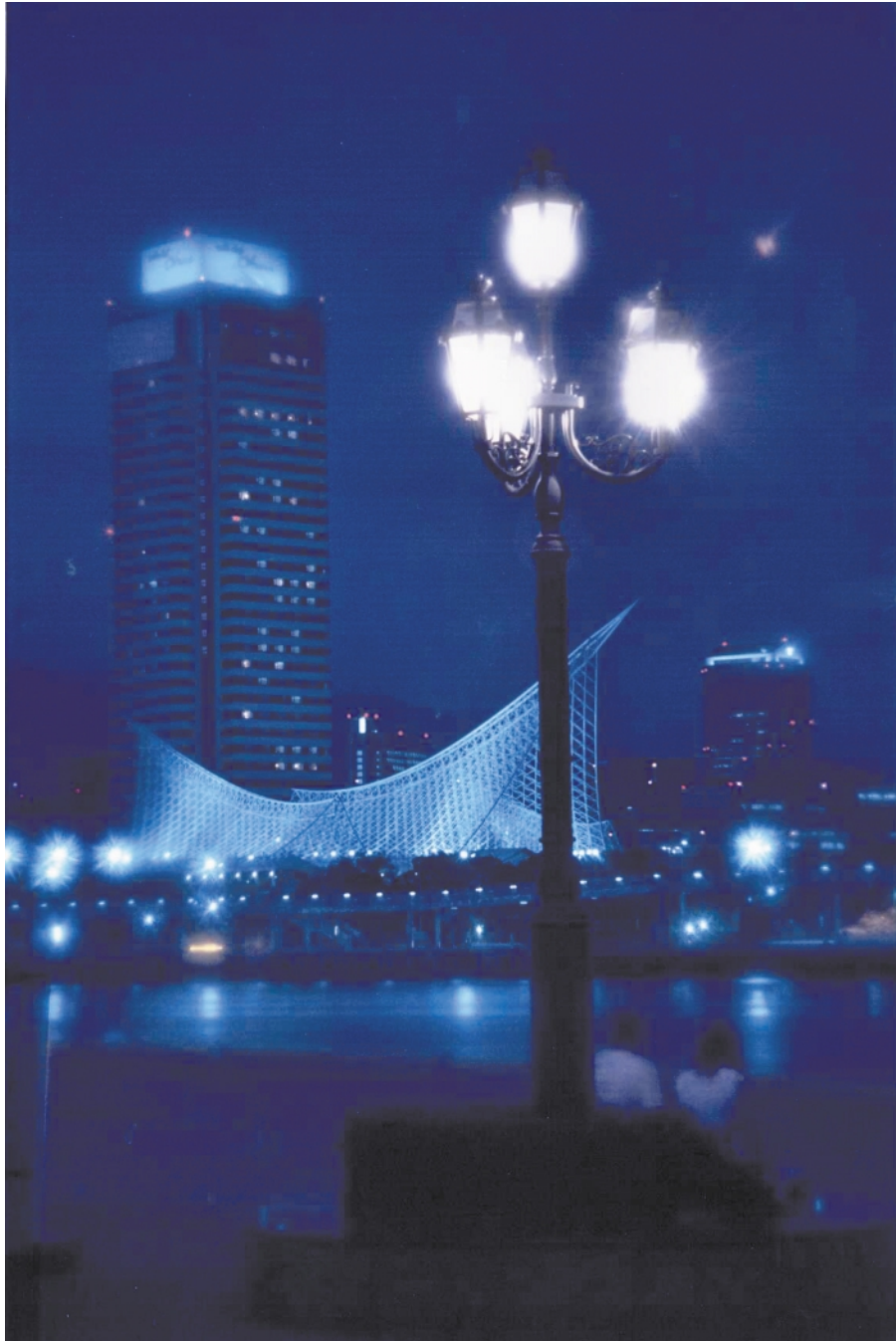
総評

今回も、美しい海岸風景、荒々しい海の表情、近代的な港湾の施設や景観、豪華客船から、小さなヨットやカヌー、モーターボートを楽しむ姿。そして、港で働く人々や、美しい景観や施設を維持するための作業の様子、汚された海岸の惨状など、幅広い内容で、人と海とのかかわりを表現した多くの秀作が寄せられました。それらの作品を拝見すると、日本のウォーターフロン

トは、年々整備が進められ、新しい景観が次々と生まれていることがよみとれます。

又、港や海辺で行われる祭りやイベントも年々増えているのでしょうか、作品を拝見していると毎回新しい発見があるのは楽しいことです。

これからも、広い視野で日本のウォーターフロントの姿を見つめ、個性ある作品づくりをしていただきたいと思います。



国土交通大臣賞

「夕涼み」
(神戸港)
藤吉 修忠

ファンタジックな雰囲気を持った素晴らしい作品です。神戸港の美しい夜の景観の中に、二人づれをさりげなく写し込み、ソフトフィルターの効果を活用して、ブルーの世界に、夜の甘いムードを演出したカメラワークが抜群です。



国土交通省港湾局長賞

「荷揚げ」

(清水港)

飯田 忠雄

海は物資輸送の大動脈といえますが、清水港での荷揚げ作業の様子を、ダイナミックな画面構成と、的確なシャッターチャンスで捉えているのが見事です。朝なのででしょうか、斜めに差し込む光が立体感と重量感、そして作業の緊張感をよく描き出しています。



日本港湾協会会長賞

「冬の地引漁」

(富山県黒部漁港)

坂本 智弘

雪が降りしきる厳しい寒さの中で、黙々と地引き網を引く姿を、望遠レンズで切りとった画面構成が実に巧みで、人々の動きにリズムが感じられ、冬の漁場の厳しさがストレートに伝わってきます。